

米原市平和祈念式典



核兵器のない世界の実現を強く望む

米原市民報

日本共産党米原市議団
清水隆徳 Tel.52-1969
藤田正雄 Tel.55-1128
太田幸代 Tel.54-2286

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

市長の式辞要旨

8月5日午前10時よりルッチプラザにおいて米原市平和祈念式典が行われました。この中で、多くの関係者により、戦争の悲惨さ、平和を希求する発言や、若い世代の意見発表、保育園児の平和の歌声が披露されました。市長の式辞と遺族会会長の呼びかけの要旨・抜粋を掲載します。

72年前、広島そして長崎に、一発の原子爆弾が投下され、

何の罪もない多くの尊い命が奪われた。また先の大戦では、遠い異国の地での熾烈な戦いの中で祖国を思い、家族の幸せを念じつつも戦場に倒れ、海に没し、また、飢えや病に苦しみながら帰らぬ人となつた方々、さらに、激しい空襲によりかけがえのない命が無残に失われた。

最愛の肉親を亡くされ、癒されることのない深い悲しみに耐え、長い苦難の道を歩んでこられました遺族の方々に対し心から敬意を表する。戦後70年以上が経過し、戦争を知らない世代が多数を占め、先の大戦の悲惨さは消え去り、私たちの生活は、平和であることが日常であるかのようになっている。

核廃絶しか平和は保障されない

一方世界各地では、武力紛争や無差別テロ、人権抑圧など、平和を脅かす動きは後を絶たない。また、近隣の国による核開発を進める動きにより、緊張感が高まっている状況にあります。

このように核開発を進め、「核の抑止力」により、平和を保障しようとする動きは、多くの国で行われている。核は、地球を破壊し、人類の存続を危うくするものです。核と人類は、共存できないというところ、「核の抑止力」は、

核を二度と使用させないことを保証するものではない。平和を保証するのは核の廃絶しかありません。

核兵器禁止条約 早期に条約署名を

このような中、この核廃絶の第一歩となる核兵器の開発や保有などを禁止する「核兵器禁止条約」が、今年7月7日、国連において、多くの国の賛成により、採択された。このことは、唯一の被爆国である我が国にとつて、長年、待ち望んでいた出来事でした。しかし、政府は、交渉に参加せず、署名も行わないと表明している。米原市としては、一日でも早く核兵器のない世界の実現を望んでいるところであり、政府が早期に条約へ署名するように、平和首長会議に参加する多くの自治体とともに、強く訴えていく。

市民一人ひとりが平和の行動を

今市民一人ひとりが平和のために行動を起こすこと、平和の道を歩み続けること、平和の尊さ、戦争の悲惨さを次代に引き継ぎ、戦争の歴史を繰り返さないことを誓う。

市遺族会会長 呼びかけ「抜粋」

昨年9月17日、安倍関連法案が成立いたしました。憲法九条で禁じられていると解釈

憲法九条を守ることは国際的責務

憲法9条を守ることは国際的な責務であり、世界との約束であります。これからの日本の進むべき道は、世界から尊敬される国づくりにまい進すべきです。私たち遺族は、子どもたちを二度と戦場に送らない誓いが反故にされることがあつてはなりません。また、いつか来た道にならないようにしっかりと見届けることが大切です。幸いにも、米原市は非核・平和都市宣言を多くのの人々に訴えております。米原市民として恒久平和を希求することは、人間として崇高な義務であり、宣言の理念が実現できる日まで、訴え続ける覚悟です。



雑感 日本共産党湖北地区委員会は米原市上丹生在住の近藤やすおさん73歳を10月の米原市市議会議員選挙で公認候補とすると発表しました。これで予定候補者が3人となり、引き続き市民の暮らしぶりを守るために全力をあげる決意です。今、国においては高齢者いじめの政策がひどくなつており、住みにくくなつていいます。高齢者も若者も女性も、みんなが住みやすい地域をつくるために欠かさない人材です。地域づくりには欠かせないやさしく親しみやすい近藤さんをよろしく。